

西南の役陣中の作（佐々友房）

雨撲戦袍風捲沙 江山十里兩三家
壯圖一蹶無窮恨 馬立斷橋看落花

雨は 戦袍を 撲ち 風沙を 捲く

解説 明治十年の西南の役に敗れたとき、戦争の激しさと無残な敗北の心境を詠じたもの。作者は熊本藩士の子として生まれ、多感なときに、維新に出会った。西南の役には薩軍側につき小隊長として参戦し、田原坂の決戦に敗れてとらわれた。

江山 十里 兩三家

語釈 ※戦袍：軍服「袍」は上着。※撲：たたく。雨が激しく降る。

※沙：まざご、細かい石。※捲：巻と同じ。※江山：山と川。

※十里：日本の一里は約四キロ。※兩三家：二、三軒の家。

※壯圖：壮大な企て。官軍を打ち破ろうとする心意気。

※一蹶：ひとたびつまずくこと。※無窮：きわまりない、

※恨：うらみ、残念に思うこと。※断橋：断ち切れた橋。

壯圖 一蹶 窮り 無きの 恨み

通釈 雨は激しく叩きつけるように軍服に降りかかり、風も砂を

巻き上げる様に吹いている。十里四方の江山の中にわずかに二、

三軒の家が見えるばかり。壮大な計画も思い通りにならず、今こ

の地の戦いに敗れて限らない恨みが残る。最後までともに戦って

くれた馬を断橋に立てて、ただ落ちゆく花を見るのである。

馬を 断橋に 立てて 落花を 看る